



上尾ロータリークラブ

2012-13年度テーマ
奉仕を通じて平和を



島村 健会長

第2465回 例会 会長あいさつ

2012.11.1

週報 No. 1938
発行 2012年11月8日

会長 島村 健
幹事 齋藤 博重
副会長 関口 和夫
副幹事 齋藤 哲雄
編集責任者
クラブ広報委員長 横山 泰史
ビジターゲスト
国際ロータリー第2770地区
職業奉仕委員会 大宮RC
岩崎 彰様
本庄南RC 幹事
後閑 純一様

行事予定
11月15日 卓話
11月22日 地区大会に振替
11月29日 結婚・誕生祝い
(時間変更)

皆さんこんにちは。早いもので11月になりました。今月のガバナー月信は、第5グループのガバナー補佐と会長が表紙を飾っています。3月のPETSの時、最終セッションが終わり懇親会までの間に撮った写真ですので、皆さん表情がちょっとお疲れかなと思います。月信の表紙に使われるとは思っていませんので、もうちょっといい写真が撮られればなと思います。

先週は50周年について富永実行委員長、神田実行副委員長、細野実行副委員長より概略説明をいただき、会員の皆さんよりいろいろとご意見をいただきましたところですが、時間が足りなくて申し訳ございませんでした。細野実行副委員長の記念事業委員会は、本日委員会を開催いただきありがとうございます。どうぞよろしく願いいたします。

本日は、RI第2770地区職業奉仕委員会の岩崎彰様に卓話をいただきました。10月が職業奉仕月間だったわけですが、公式訪問例会、親睦旅行等で時間が取れなくて、今月になりました。先月のロータリーの友にR I田中会長のコメントがありました。

私を変えた職業奉仕という考え方
そんな状況が一変したのが、例会で、職業奉仕の卓話を聞いた時でした。職業奉仕という考え方は、私にとってまったく新しいものでした。それまでは、人生の目的や仕事をする理由について、あまり考えたことはありませんでした。何より仕事が忙しかったのです。常に会社のこと、そしてそれを大きく、素晴らしい会社にするこばかり考え、あらためて仕事の真の目的を考えたことはありませんでした。

職業奉仕という考え方を理解してから、自分の仕事や人生の目的に対する態度が完全に変わりました。仕事をする目的とは、ただお金を稼ぐだけでなく、いかに地域社会に貢献し、地域社会や人々の生活をより良くできるかにあると気づいたのです。これを理解した時、「超私の奉仕」の考え方が理解できました。

それから私の人生は変わり、ロータリーでの奉仕に積極的に参加するようになりました。これが、私のロータリー・モメントです。



AGEO ROTARY CLUB

幹事報告

齋藤博重幹事

◆会長からお話がありました。今日はガバナー月信とロータリーの友が配布されております。様々なロータリーの活動等が掲載されておりますので、ご一読のほどよろしく願いいたします。
◆今月の17、18日は地区大会となっております。ご出席の確認がまだ取れていない方がいらっしゃいますので、お返事の方よろしく願いいたします。また、当日のスケジュールは後ほど、参加される方にはご連絡いたします。よろしく願いいたします。

委員長報告

親睦活動委員会 深澤圭司委員長

先月行われました。親睦旅行の視察をまとめたレポートを作成しましたので、皆様に観覧させていただきます。また、上尾市が継続的に支援している陸前高田市の復興計画、奇跡の一本松保存募金、震災当日の被害状況をお配りしております。ご一読いただきますようよろしく願いいたします。

ロータリー財団委員会 名取勝委員長

今月は財団月間となっております。早速、大塚バスターガバナーから寄付をいただきました。この財団は会員の皆様のおかげで成り立っております。これから私の方で寄付のお願いにいかと思っておりますので、皆様のご協力よろしく願いいたします。

ゲスト挨拶

本庄南ロータリークラブ 幹事 後閑純一様

本日、上尾ロータリークラブ様にメーキャップに來たのは、実は当クラブ会長小松が上尾の小敷谷に新しい施設を作りました。ただ、上尾のことに関してあまり知識や情報がないので小松と相談して上尾にあるロータリークラブさんへ訪問しようと考えました。先日は上尾北にメーキャップしてきました。今後も末永く情報交換をしていきたいと思っております。本日はありがとうございました。

卓話

第2770地区職業奉仕委員会 岩崎彰様

本日は貴重なお時間をいただきありがとうございます。私はロータリー歴25年あるのですが、実は職業奉仕委員会に所属するのは初めてでございます。本日は少し私の職業について少しお話させていただきます。

私は桶川市の生まれで今も桶川で生活しております。大学卒業後2年間一般の事業会社へ務めておりました。その時に読んだビジネスガイドに不動産鑑定士という職業が将来有望されると書いてありまして、すっかりその気になり会社を辞め家へ不動産鑑定士になるため勉強を始めました。そして28歳で不動産鑑定士の資格を取得しました。その時は大阪に住んでいたのですが、父が他界し母から埼玉に帰ってきてと言われ埼玉に戻ったあと熊谷の個人鑑定士の人の元で2年間働き30歳の時に開業いたしました。その2年後に大宮に事務所を設立し今に至っております。県の鑑定士協会というものが10年間ほど会長を務め、連合会でも常務理事で研修委員長も務めておりました。その後、ガバナー補佐を受けて

欲しいという依頼がきまして、尾花部門委員長と同期でガバナー補佐を務めました。昔は官公庁がその土地を取得したり売却する時の適正価格を付けたりがメインだったのですが、最近は民間の仕事も増えてきて、特に相続に関する同族間の売買などが増えてきています。

本日の本題の職業奉仕について、皆様に資料をお配りしております。まずアーサー・フレデリック・シェルドンのお話をしたいと思います。1905年2月23日にシカゴRCは第1回目の例会を開きました。当時は親睦と相互扶助という目的を掲げて異業種交流を図ろうとしていました。ところが、翌々年になりドナルド・カーターに入会を誘ったところ、ドナルド・カーターに「内向きで自分たちの利益しか考えない団体は将来性がないから入らない」と言われたそうです。その後、シカゴ市の市民の為に何が出来るかという社会奉仕的に要素を入れないといけないようになるようになったみたいです。

1908年にアーサー・フレデリック・シェルドンがシカゴRCに入会します。このアーサー・フレデリック・シェルドンはミシガン大学の経営学部の修士号を取得されている方で、販売学を専攻していました。自転車でも本を売り歩いて大変な成果を収めたそうです。その後、ご自身でシェルドンビジネススクールという学校を1902年に開校しました。シェルドンが作ったビジネススクールの考え方をポール・ハリスは丸呑みしました。職業に関する考え方、職業奉仕の理念をポール・ハリスはそのままロータリーに導入しました。シェルドンは職業というものは金儲けをしよとすると儲からないという方の人でした。一回たまたま高い値段で売れるよりも頻繁に買ってくれる人が増え、その買ってくれた人の声でまた顧客が増えるという方が無いと結果的に儲からないという考え方です。最初から利益ばかり追いかけていて儲からないまま奉仕から入りましようと考えていました。

「He profits most who serves best」というのがロータリーの標語になっています。一般的な訳は「最も奉仕する者、最も多く報いられる」という田中毅PDG他が言っておられる訳です。また小堀憲助中

央大学名誉教授が「奉仕に徹する者に最大の利益あり」という訳し方もしておられます。職業奉仕というのはリピータを得るための科学的かつ道徳的な経営方法であると言えます。最終的な受益者はロータリー自身だと言っています。日本のロータリアンはこの考え方を絶賛しています。

奉仕というのは何かと言いますと、他人を思いやり他人の為に尽くすことが奉仕です。これを最大にすることによって結果的に利益を得られます。これがシェルドンの考えでありロータリーに導入にした職業奉仕の理念だと思えます。次にハーバード・テラーについてお話します。ハーバード・テラーもシカゴRCの会員でして、1929年の世界大恐慌から2年後に入会した人です。ある会社が潰れかかっている、このハーバード・テラーに会社再生を依頼されました。ハーバード・テラーはこの会社を再生させる為に何か従業員に対して方向性をつける標語はないかと考えて、この「四つのテスト」を作りました。日本語訳は哲学的な感じになっています。実際の訳は、働いている社員がすぐ分かるような内容です。

1番目の「Is it the truth?」は「嘘はないか?」と言っています。

2番目の「Is it fair to all concerned?」は「全ての関係者に公正かどうか?」と言っています。

3番目の「Will it build goodwill and friendship?」この日本語訳は「好感と友情を深めるか?」となっておりますが、実際は「信用を高め、取引先を増やせるか?」となります。

最後の「Will it be beneficial to all concerned?」この日本語訳は「みんなの為になるかどうか?」ですが、実際は「すべての取引先に利益をもたらすかどうか?」です。

これもやはりリピータを増やすためには、みんなの取引先が同じように利益が上がってないと駄目で、偏ってはいる関係は続きません。アーサー・フレデリック・シェルドンのいう職業奉仕の理念の実践版がハーバード・テラーの「四つのテスト」になるかと思えます。日本語だとかなり昇華された文言で我々は唱和しますが、実際は生々しい取引の

現実をみて戒めるものだと私は感じています。次にベンジャミン・フランクリン・コリンズについてお話します。この人の言葉で有名なのは「Service above self」があります。現状では「超私の奉仕」と訳されています。「He profits most who serves best」が職業奉仕の理念であるとすれば、この「超私の奉仕」ももとは弱者に涙して人道的な奉仕活動を実践する社会奉仕や国際奉仕の標語だったのかなと思います。

イギリスを中心に「He profits most who serves best」はなかなか受け入れられない標語でした。特に1980年代に女性の入会が認められるようになってからはHeが男性の三人称なので女性もいるからこの男性を指す標語は取り下げてくれと反発がありました。そのため欧米ではアーサー・フレデリック・シェルドンの標語はあまり受け入れられていない現実があります。

ただ、日本では職業奉仕は金看板という部分が色濃くありますし、私自身も今回、職業奉仕の勉強をした中でやはりロータリアンとしてこの標語大切にすべきだと思います。最後にロータリー綱領から2番目の項目、これが職業奉仕だと言われています。先ほど部門委員長にお聞きするところによれば、新世代奉仕という第5の部門が出来ましたので、今後この綱領も見直されるみたいです。本年度の地区職業奉仕委員会が何をしようとしているのかと言いますと、部門委員長から紹介がありました「てんびんの詩」という映画の貸し出しをしております。私も地区協議会で見ましたが、涙が出てしまうとても良い映画でした。

また、職業分類ですが、これはガバナーの意向でもあるのですが、各クラブの職業分類の統一があまり取れてないという事で、職業奉仕委員会としては職業分類のモデルを作りたいと考えています。

もう一つ11月26日に職業奉仕委員会として単独のセミナーを開催いたしますので、是非大勢の方に参加してほしいです。

このセミナーでは、はとバスの元社長の講演では職業奉仕の理念を実践して、はとバスが息を吹き返して現在の素晴らしい企業になったというセミナーの内容になると思います。どうぞご期待ください。ご清聴ありがとうございました。



岩崎 彰様 卓話ありがとうございました。

出席 会員数	36	出席数	25
欠席 欠席数	11	(%)	69.44
前々回確定		欠席数	0
修正 (%)	100	(M・U)	0

スマイル 33,000円

- 地区職業奉仕委員会 岩崎彰様 本日は職業奉仕の卓話をさせていただきました。
 - 本庄南RC 幹事 後閑純一様 本日はメーキャップさせて頂きありがとうございました。
 - 島村会長 地区職業奉仕委員会岩崎彰様卓話ありがとうございました。本庄南RC後閑様ようこそ
 - 関口副会長 地区職業奉仕委員会岩崎彰様卓話ありがとうございました。本庄南RC後閑様ようこそ
 - 齋藤博重幹事 岩崎彰様卓話ありがとうございました。後閑様ようこそ
 - 齋藤哲雄副幹事 岩崎彰様卓話ありがとうございました。
- 大塚信朗会員 富永会員 吉川会員 神田会員 尾花会員 大木会員 井上会員
村岡会員 名取会員 岡野会員 渡邊会員 萩原会員 齋藤重美会員 横山会員
須田会員 吉野会員 深澤会員 藤村会員 樋口会員 野瀬会員

